

「にっぽん農紀行 くふるさとに生きる」静岡県編

(1) アバン

○美しい富士山



富士山と茶畑

○湯呑に注がれるお茶

○お茶を飲んで笑顔の人

○お茶壺道中行列

○御船神事の練り

○はらの虫コンサート

(おやしバンド)

○美しい萌木色の茶葉

○茶畑の広がり

○牧之原台地の茶畑風景

○茶樹を定植する人

○畝間を刈っている人

●**タイトル**

○大井川鉄道と茶畑

タイトル

日本人の心の山・世界文化遺産の富士山に見守られている静岡県は、古くからお茶の名産地として知られていました。

土地の特徴や気候がお茶の栽培に適し、質の良い美味しいお茶が育ったからです。

お茶の文化が、鮮やかに練り歩きます。

江戸商人の勢いを勇壮に伝える人がいます。

お茶への情熱が活きいきと響いています。

収穫の時期、萌木色もえぎいろに染まった茶畑が、ほのかな

お茶の香りで満たされます。

静岡のお茶は、生産農家の人々の深い愛情と努力に育まれているのです。

にっぽん農紀行

『ふるさとに生きる』

く人々の愛がはぐくむ茶のかおりく

— 静岡県編 —